

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [長野県長野西高等学校] 担当教諭名 [齋藤 秀夫] (国際教養科1年6組 40名)
 相手国・地域 [ベルギー]
 海外学校名 [Go! Busleyden Atheneum Campus Pitzemburg]
 担当教諭名 [Eef Haezebrouck / Katrien Petit / Steven Van der Taelen]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合英語	レポート作成、発表、ディスカッション	10
	美術	壁画作成	8
	総合的な学習の時間	自己紹介ビデオ作成、フィールドワーク	15

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Let's grow our future with good food and quality education
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	We want a world where all people can eat a full meal, study, and live happily and safely. To realize that end, don't pretend to understand, but know what's actually going on. Then take action in small ways. What we can do is close at hand. Let's donate to organizations that provide food aid. Let's give a helping hand to those who are in need. Let's be grateful for our daily lives and focus on the world and the SDGs. Let's be grateful for the chances we get, for the chance to spread our message of hope and universal values and sustainable cooperation. Let's learn about the SDGs in our daily lives and expand our circle of cooperation to the world.



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 国際教養科の様々な行事(海外語学研修、各種講演会、英語合宿など)が、コロナ禍の影響を受け制限される中で、海外の生徒たちと世界的なテーマについていろいろなやり取りをすることができた。学習機会と多様な学びを保証することができた。 様々な視点や考えを持つ相手校の生徒たちとのやり取りを通して、世界が抱える問題に対して視野を広げ、目の前の問題や課題に自ら積極的に行動しようとする姿勢や態度を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校としては初めての取り組みであり、教師も生徒も手探りの状態で模索しながらやってきた1年間であった。両校ともそれぞれの日程や学校行事をこなす中でのやり取りは、スケジュール面で余裕をもって進めていくことが重要であると感じた。 1年間の活動の成果を、今後の学習活動にどのように活かしていくべきであるか。その方策の検討及び実践。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>・文化や環境が違っていても、他の国にも解決できない日本と同じような問題があるのだということに気づいた。「文化が違うから」と考えることは少なくなり、個人の尊重をより考えるようになったり、相手国に対してより親近感を抱くようになったりした。一方で、考えや価値観の違いに気づき、自分の生活や考え方は当たり前ではないのだとの気づきにもつながった。自分たちの国だけを見てはいけなと感じた。</p> <p>・SDGsで取り上げられている課題は遠い世界のものではなく自分たちの身近に存在することなのだという意識を持てた。素直に意見を伝えることで相手がいる実感が湧いた。お互いに批判的視点に立って意見交換ができてよかった。自分が思いもよらなかった意見が出てきて、良い話し合いができた。自分がボランティアに参加しようとするきっかけになった。</p>	<p>・アートマイルの活動は、そのテーマとするところを両校の合意のもの1つに絞って学習をしていくのが本来の姿だと思いますが、このペアはそれぞれが取り上げた2つのテーマのまま、その共通項やつながりを見つけることによって学習を続けてきました。当初はどのようにまとめていくのか不安なことがありましたが、それぞれの生徒たちが独自の意見や考えを出すなかで、目指すべき世界や将来の在り方が少し見えてきて、それに沿ったメッセージや壁画を完成させることができました。実際に生徒にやらせてみる、任せてみることで彼ら彼女らの力を伸ばすうえで大変重要であるということが実感できました。『教育は実践科学である』の思いを強くしました。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校の紹介ビデオを視聴し、学校や生徒、地域の様子を学ぶ。 ・グループ毎に自己紹介や学校紹介のビデオを作成して、送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校が決まった時には、どんな生徒たちかな？という期待と不安の入り混じる複雑な気持ちであったが、自分たちと同じ年代の生徒の様子を見て、安心しているようであった。 自分たちも肩肘張らずに紹介ビデオを作成していた。 	総合
共有 テーマ学習	8月 ～ 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs Goal 2 “Zero Hunger”と Goal 4 “Quality Education”に関して、グループ毎に地元の団体や組織にインタビューをして、その取り組みや課題点などをまとめる。(夏休み中) ・各グループでまとめたものを授業で発表し合い、共有する。 ・相手校へレポートとして送る。 ・ベルギーからもグループ毎のレポートが届く。自分たちがまとめたものと比較、分析をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外へ出での活動には不安や抵抗感もあったようだが、教師側からいくつか窓口となる団体を紹介することで何とか取材できていた。コロナ感染や大雨被害により、予定通りに実施できなかったグループもあり残念であった。 ・教室内での発表やベルギー側に送るプレゼンテーションのデータ作成はほぼ順調であった。 ・日本ではあまり感じられない、文化や宗教、難民などの側面を相手校のレポートから感じていた。 	課外学習 総合英語
融合 メッセージ作成	11月 ～ 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・議論の論点を定める。”What can we do to break “the vicious circle of life?”と”What can we do to reduce food loss?” ・生徒から出た意見やアイデアを相互にやり取りし、議論を深める。 ・質問や回答、説明を繰り返しやり取りしながらメッセージの選定と校正を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論の論点に関して、日本側生徒の意見は身近で取り組めること、一人ひとりが日常ですぐに実践できること、などが多かったのに対して、ベルギーの生徒からは国連改革、社会制度や税制改革、私たちの生活を根本的に変えるべきだという主張が出た。その擦り合わせのために何度も質問や意見をやり取りする意欲的な姿勢が強まってきた。 	総合英語

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
創造 壁画制作	12月 ～ 3月	・メッセージに基づき、壁画デザイン の原案をやり取りし、構成を決める。 ・美術授業選択者を中心に下書き から彩色を行う。	・メッセージを壁画にするために生徒 たちが原案となるデザインをいくつか 出し、それらを検討し、最終的に構成 をまとめていった。	美術 総合
評価 振り返り 自己評価	3月	・完成した壁画を校内で展示発表 ・生徒による1年間の活動の振り返り	・フォーラムにアップされた完成壁画 をクラスで鑑賞した。実物は返送され てから鑑賞予定。 ・自己評価では肯定的な意見が多か った。	総合英語 総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	・自分たちの学校や地域を紹介するために、改めて地元の特徴や文化財(善光寺)を自分たちで学び、グループごとの紹介ビデオとして作成することができた。 ・相手校の紹介ビデオや報告から、日本との違いだけでなく似ていることも発見できた。日本のアニメが海外でもとても人気があることに気づき、より親近感が増していたようである。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	・説得力を持って相手に伝えるためには、「～だと思ふ」といった主観的な表現や借りてきたデータだけでは不十分であり、より客観的な根拠や自ら探してきたデータが必要であることを感じていた。そのようなものがあると、より自信をもって主張できるようになっていった。 ・相手校からのメッセージをそのまま鵜呑みにするのではなく、自分たちの主張との間に隔たりがある場合は、疑問を投げかけたりさらに説明したりして、相手との理解を深めようとする態度が深まった。それぞれの学校に様々な制限がある中でも、意見のやり取りを何度もできたことは双方にとって大きな収穫になったと思う。
主体的に考え行動する力	4	・ネット情報だけに頼るのではなく、自ら動くことで本物を理解してもらいたいとの教師の考えから、夏休み中の課題として、グループごとのフィールドワークを課した。各グループが取り上げたトピックに関わる団体や組織に直接アポを取りインタビューを行った。直に触れることで、SDGsの取り組みが生徒により身近なものとして感じられるようになっていった。 ・SDGsの行動目標を身近なものにとらえ、『自分事』として行動できる生徒が出てきた。エンカル消費行動に興味を持った生徒が、その活動を広く知ってもらうために地元のグループに参加し、広報担当として活動を始めた。また、ロシアによるウクライナ侵攻に心を痛める生徒が、ウクライナ義援募金を行うため、クラスの発起人となり計画や準備を行い、3日間校内で募金活動を行った。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	・文化や環境が異なる国であるということメッセージや議論のやり取りをする中で感じ、そのギャップを埋めるために、質問を投げかけたり自ら積極的に情報発信をしたりすることで理解を深めることができた。 ・世界へのメッセージをまとめる場面で、自分たちの想いや主張をはっきりと伝えると同時に、相手が考えることや判断することもそのメッセージに込めようとする姿勢が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	・自分たちが調査や聞き取りから学び、相手校との議論のやり取りをする中で生まれてきた、テーマについての想いが生徒たちから様々な言葉として出てきた。メッセージ中に”Let’s ～”を繰り返すことで、世界の人たちへの呼びかけの形とした。 ・言葉として表した想いをどのようなモチーフで壁画に描くべきか、生徒同士が意見やアイデアを出し合いながら、最終的に一つのデザインにまとめあげることができた。